

## ゴール12「つくる責任 つかう責任」



SDGsゴール12「つくる責任 つかう責任」を目標としています。現在、私たちはたくさん資源を使って多くのものを生産・消費して暮らしています。大量生産・大量消費の暮らしが地球にかかる負担は大きなものとなっています。持続可能な生産や消費を行い、地球の環境と人々の健康を守るよう責任ある行動が求められています。

身近な問題としては、「食品ロス」があげられます。世界では、生産されている食品の約3分の1が捨てられています。また、日本では年間600万tもの食品ロスが発生しています。国民一人あたりで計算すると、お茶碗一杯分の食べ物を毎日捨てていることになります。食べ残しや賞味期限切れ、買すぎや作りすぎなど、日々の暮らしの中で意識すれば改善できる部分もあります。地球にかかる負担を減らし、未来へつなげる一歩を踏み出しましょう。

○行政の役割としては、環境負荷の削減を進める上で持続可能な生産と消費は非常に重要なテーマです。これを推進するためには住民一人ひとりの意識や行動を見直す必要があります。省エネや3Rの徹底など住民対象の環境学習会などを行うことで意識の醸成を図ることができます。

○私たちができること(例)

- ・資源ごみの分別回収やリサイクル製品を利用するなど、3Rに取り組む。
- ・食べきれない量を考えた買い物、料理をするなど、食品ロス対策に取り組む。

2030年までの国際的な目標の実現に向け意識をして実践しましょう。

※「3R(スリーアール)とは、『Reduce(リデュース):ごみの量を減らそう』、『Reuse(リユース):繰り返し使おう』、『Recycle(リサイクル):資源として活かそう』の3つの頭文字をとった言葉で、ごみの減量やエネルギー節約のキーワードです。

資源ごみの分別回収

私たちができること(例)

リサイクル製品の利用

食品ロスの対策

### 目標達成のためのターゲット

- 2030年までに、天然資源を持続的に管理し、効率よく使えるようにする。
- 2030年までに、ごみが出ることを防いだり、減らしたり、リサイクル・リユースをして、ごみの発生する量を大きく減らす。
- 2030年までに、人々があらゆる場所で、持続可能な開発や、自然と調和した暮らしに関する情報と意識を持つようにする。

SDGs 12「つくる責任 つかう責任」では、上の3つのターゲットを含む、全11のターゲットを掲げ、目標達成に向けて取り組みを進めていきます。

※公益財団法人 日本ユニセフ協会HP引用

問 みらい創生課 企画・SDGs推進班 ☎ (72) 1151